

生徒指導主事の仕事とは

初任地での分校勤務を終え、市内の小学校に勤務して3～4年経った頃、生徒指導主事の女性の先生が、内地留学に行かれることになった。その時、校長先生に呼ばれ、「内地留学で留守になる3か月間、生徒指導主事の代わりをなささい。」と言われた。

当時の私はまだ若く、生徒指導主事の役割を十分に認識していなかった。子供に交通事故などがあつたとき、事故報告書を書くのが主な仕事だと思っていた。軽いといえば軽いのだが、校長先生から言われたのだから当然「はい」と返事をしたものの、特に何もしないで毎日を過ごしていた。

1週間ぐらい経った頃であろうか、再び校長先生に呼ばれ、「生徒指導主事ちゃ、どんなことをするか分かつとるか。」と聞かれた。分かっているはずもないので、「申し訳ありません。」と謝るほかなかつた。その後、校長先生は、「生徒指導主事の仕事で最も大切なのは、子供たちの実態を知ることである。」と言われた。

この言葉を聞いて私なりに考え、思いついたのは、「学校横の農協前、信号のない交差点に立って登校する子供たちに挨拶をし、子供の様子を見る。」ことであつた。

次の日から、毎日交差点に立ち、子供たちに挨拶をし、言葉をかけ、同時に子供たちの表情や行動を見ることを続けた。安全確認をして横断するなどの交通指導の機会として生かすこともできた。この取組で、同じ時間帯には同じ通学班が通ることや同じ通勤の車が走行することが分かつた。また、一人一人の子供たちの表情が日によって違い、笑顔もあれば、元気のない表情のときもあることに気付いた。そして、そのことを、担任の先生や職員会等で少しずつ話すことができるようになった。

この取組は、その後の教員生活で継続することができたし、校長になってからも、登校や下校の様子を見ることを通して、子供たちの実態を把握することに、大いに役立つた。